

Title	聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告書（2010 年度）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.1, 2011.6 : 16-22
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=3064
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archive

聖学院大学大学院・総合研究所 教員活動報告書（2010 年度）

ふか い とも あき
深 井 智 朗

現職位：教授

本学への就任：1997年 4 月 1 日

最終学歴：

1996年 6 月 アウクスブルク大学第一哲学部（現在哲学・社会学部）博士課程修了

取得学位：

1996年 6 月 Dr. Phil. （アウクスブルク大学）

2005年11月 博士（文学）（京都大学）

所属学会：日本哲学会（1996年～）、日本宗教学会（1997年～）、日本基督教学会（1998年～）

担当科目：

学 部 キリスト教と倫理的諸問題B（近代化とプロテスタンティズムとの関係）、ドイツ語講読B（「ドイツ人の一生」の講読）

大学院 ドイツ語文献講読/原書講読B（O・バウムガルテンの著作の講読）

学生指導：大学院博士課程のキリスト教文化学特殊研究（通年）

専門分野：近・現代ドイツ思想史、キリスト教文化学

研究テーマ：

- 1) ヴィルヘルム帝政期からヴァイマル共和国時代のドイツ・ルター派と社会
- 2) フランクフルト学派とパウロ・ティリッヒ

研究内容：

- 1) についてはヴィルヘルム帝政期の研究を終え、ヴァイマル共和国期の研究を継続している。
- 2) についてはアドルノ、ホルクハイマー、マルクーゼ、フロムとのティリッヒとの思想的交流や個人的関係についての調査研究を共同研究として行っている。

研究業績（2010年度〈2010/4～2011/3〉）

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Ba 学術論文	The Doctrine of the Trinity and Modernity in the Japanese church from the Meiji Era to the present	Theologische Rundschau. 75 (2010), J. C. B. Mohr, Tübingen	日本の近代化におけるキリスト教的人格思想の影響についての考察	2010年12月
Ba 学術論文	An Aspect of The Jewish Question in Modern Japan: Correspondence between Leo Baeck and Tetsutarō Ariga	Zeitschrift für Neuere Theologiegeschichte/ Journal for the History of Modern Theology, 17(2010)	最近今日と大学文書館で発見したレオ・ベックと有賀鉄太郎の往復書簡の紹介と、レオ・ベック『ユダヤ教の本質』が満鉄調査部の要請で翻訳される経過についてドイツ人・アメリカ人向けに考察した。	2011年 1 月
C 学術論文	「レオ・ベック＝有賀鉄太郎往復書簡」、「近代日本におけるユダヤ人問題の一断面」(佐藤貴史氏との共著)	『思想』(岩波書店) 2011年 1 月号 No.1041	最近今日と大学文書館で発見したレオ・ベックと有賀鉄太郎の往復書簡の紹介と、レオ・ベック『ユダヤ教の本質』が満鉄調査部の要請で翻訳される経過について日本人向けに考察した。	2011年 1 月

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
C 学術論文	「1900年 前後のアドルフ・フォン・ハルナックとマックス・ヴェーバー」	『聖学院大学総合研究所紀要』49号 (2010年)	ハルナックとマックス・ヴェーバーの往復書簡についての考察	2011年 3 月
C 学術論文	「『……私たちが長い間会えないでいることを大変寂しく思っています……』——エーリヒ・フロム＝パウル・ティリッヒ 往復書簡及び関連書簡の解説と翻訳」(竹淵香織氏との共著)	『聖学院大学総合研究所紀要』49号 (2010年)	最近発見したティリッヒとフロムの往復書簡の翻訳と、両者の思想の比較と考察	2011年 3 月
C 学術論文	「『アウクスブルク宗教平和』とは何であったのか」	『キリスト教と諸学』2010年	しばしば引用される「アウクスブルク宗教平和」の「領主の宗教その地に行われる」という言葉についての考察	2011年 3 月
Aa 著書	「『ただ自分が受け入れられたという事実を受け取れ』——パウル・ティリッヒにおける危機と霊性」	『危機と霊性(第57回上智大学夏期神学講習会)』(日本キリスト教団出版局)	パウル・ティリッヒの思想と彼の人生における危機との関連についての考察	2011年 3 月
G 評論	「出版社の神学」	『福音と世界』(新教出版社)で2010年 4 月～2011年 3 月まで連載	オイゲン・ディーデリヒス等の編集者の思想が思想研究に与えた影響についての考察	2010年 4 月 ～ 2011年 3 月
G 評論	「プロテスタンティズムの遺伝子鑑定」	『春秋』(春秋社) 2010年 4 月～2011年 3 月まで	日本の近代化とプロテスタンティズムとの関係についての考察	2010年 4 月 ～ 2011年 3 月
G 評論	「『キリスト教は戦後デモクラシーの担い手となり得るのか』——戦後日本と1960年のパウル・ティリッヒ」	2010年 6 月18日 日本ピューリタニズム学会のシンポジウムでの発題	1960年のティリッヒ来日時における講演や書簡、対談の録音資料を通して戦後デモクラシーとキリスト教との関係について考察した	2010年 6 月

まつ たに よし あき
松 谷 好 明

現職位：特任教授

本学への就任：2002年10月 1 日

最終学歴：

1967年 3 月 一橋大学社会学部卒

1970年 2 月 神戸改革派神学校 3 年中退

1972年 9 月 英国Bristol University大学院(Diploma Course) 1 年間

1972年 9 月 英国Trinity College Bristol神学校、特別研究生 2 年間

取得学位：

1973年 6 月 Diploma in Theology

2005年 3 月 Ph.D. (聖学院大学)

所属学会：日本ピューリタニズム学会

担当科目：近代社会とピューリタニズムA、近代社会とピューリタニズムB

専門分野：歴史神学

研究テーマ：ピューリタンの歴史と神学

研究内容：ピューリタンの礼拝論、ウェストミンスター信仰告白の歴史的注解、現代中国プロテスタント神学の動向

研究業績 (2010年度 〈2010/ 4 ～ 2011/ 3 〉)
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
F 学会発表	現代中国プロテスタント神学の動向	日本ピューリタニズム学会		2010/ 6 /19
F 学会発表	中国におけるプロテスタント神学教育の現状	聖学院大学総合研究所		2011/ 1 /19
G 書評	John Witte, Jr., The Reformation of Rights	ピューリタニズム研究 第5号		2011/ 2 /28

みやもと さとる 宮本 悟

現職位：准教授

本学への就任：2009年4月1日

最終学歴：

1992年3月 同志社大学法学部 卒業

1999年2月 ソウル大学政治学科 修了

2005年3月 神戸大学大学院法学研究科 修了

取得学位：

1992年3月 学士（法学）

1999年2月 政治学修士

2005年3月 博士号（政治学）

所属学会：日本政治学会（1999年～）、日本国際政治学会（1999年～）、現代韓国朝鮮学会（2000

年～）、日本ピューリタニズム学会（2008年～）、日本比較政治学会（2008年～）、日本国際安全保障学会（2010年～）

専門分野：朝鮮半島研究、安全保障論、政軍関係論

研究テーマ：南北朝鮮の対外関係と安全保障政策

研究内容：現在の核問題や米韓関係に直結する1970年代の南北朝鮮の外交政策や安全保障政策の研究。北朝鮮の武器取引や軍事政策に関する研究。

研究業績（2010年度〈2010/4～2011/3〉）

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
Ba 学術論文	DPRK Troop Dispatches and Military Support in the Middle East: Change from Military Support to Arms Trade in the 1970s	EAST ASIA (Volume 27, Number 4)	本稿では、無償援助で始まった1970年代の北朝鮮による中東への軍事協力を検討することで、1975年からの急速な外貨不足によって現在に至る中東への武器輸出が始まったことを明らかにした。	2010年11月
Bb 学術論文	韓国の電子商取引発展における軍事技術の民間移転事業：CALSの民間移転に関する金鐵煥の役割	聖学院大学総合研究所紀要48号	本稿では、電子商取引の標準規格であるCALSを韓国に導入した金鐵煥の行動や発表論文を分析することで、CALS導入が軍事技術の民間移転の一環として行われたことを明らかにした。	2010年9月
Bb 学術論文	なぜ延坪島に朝鮮人民軍は砲撃したのか？－アリソンの3つのモデルによる分析の試み－	『国際比較政治研究』20号	本稿では、延坪島事件を起こした北朝鮮の目的をアリソン・モデルによって分析することで、国際環境だけではなく、国内の組織や官僚の動向によって説明できることを明らかにした。	2011年3月

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
D 研究 ノート	国勢調査から見た韓国におけるキリスト者の現状	聖学院大学総合研究所Newsletter Vol.20 No. 1	本稿では、韓国の国勢調査で明らかになったプロテスタント教徒が減少する原因をカトリックとの比較から推察した。	2010年6月
D 研究 ノート	韓国のルーテル教会の現況と歴史(1)	聖学院大学総合研究所NewsLetter Vol.20 No. 2	本稿は、韓国のルーテル教会の歴史で、米ミズーリ・シノッドが韓国宣教を始めるまでの過程を論じたものである。	2010年9月
D 研究 ノート	韓国のルーテル教会の現況と歴史(2)	聖学院大学総合研究所NewsLetter Vol.20 No. 3	本稿は、韓国のルーテル教会の歴史で、韓国宣教が始まってから現在に至るその発展の軌跡を論じたものである。	2010年12月
F 学会発表	朝鮮人民軍の命令系統－北朝鮮はどうやって軍隊を統制しているのか？－	NK会10年6月例会	本報告では、北朝鮮ではどのように軍隊を統制しているのかを命令系統によって解説した。	2010年6月26日
F 学会発表	対外関係と国際的制裁	2010年度アジア経済研究所夏期公開講座	本講義では、核問題をめぐる米朝交渉と六者会合の動向を解説し、さらに北朝鮮に課されている経済制裁について国連、日米の順に解説した。	2010年7月20日
F 学会発表	Roles of Christianity for Peace in the East-North Asia	長老会神学大学シンポジウム「第14回中韓学術大会第11回国際学術大会東北アジアの平和のためのキリスト教の役割」	本シンポジウムでは、国家形成が未完である北東アジアにおいて、国家形成にキリスト教がどのように貢献できるかを論じた。	2010年9月14日
F 学会発表	日本の対北朝鮮支援の現状と課題	聖学院大学総合研究所シンポジウム「東アジアの平和と民主主義－北朝鮮問題と日韓の役割」	本シンポジウムでは、日本の対朝援助が莫大なものであるが、制裁との関係において矛盾が生じていることを指摘した。	2010年9月17日
F 学会発表	最近の北朝鮮における軍制改革－軍の世代交代と後継者の影響－	Foreign Policy Center研究会	本報告では、北朝鮮における最近の軍制改革について、世代交代と後継者問題から論じた。	2010年11月24日
F 学会発表	1970年代の北朝鮮の中東に対する派兵と軍事支援の目的の変遷	韓国政治学会2010年年例大会	本報告では、1970年代の北朝鮮による中東への派兵と軍事支援が、外貨不足によって現在に至る中東への武器輸出に変遷したことを論じた。	2010年12月4日
F 学会発表	延坪島に対する朝鮮人民軍の砲撃の目的－アリソンの3つのモデルによる分析の試み－	関東政治社会学会第3回研究会	本報告では、延坪島事件における北朝鮮の目的をアリソン・モデルによって分析することで、国際要因だけではなく、国内の組織や官僚の動向によって説明することを試みた。	2010年12月18日
F 学会発表	1970年代の北朝鮮の外交方針転換と海外軍事協力の推進	東アジア地域史研究会(東京大学)	本報告では、1970年代における北朝鮮の外交方針の転換を国連と第三諸国に対する外交政策から論じた。	2011年1月8日
F 学会発表	北朝鮮の政治と社会	横須賀市市民大学講座	本講義では、北朝鮮の政府・党機関の概要を説明すると共に、核問題に対する米朝の交渉について解説した。	2011年1月16日

ブライアン バード

Brian Byrd

現職位：Instructor

本学への就任：2003年4月1日

最終学歴：

2007年4月 Seigakuin University Graduate School
Ph.D. Course (date entered; currently
in progress)

1984年5月 Yale University Divinity School

1981年5月 Pomona College

取得学位：

1984年5月 Master of Divinity Yale University
Divinity School

1981年5月 Bachelor of Arts in Economics Pomona
College

所属学 会:Phi Beta Kappa National Honor Society
(1981 to present), Japanese Association for the
Study of Puritanism(2006 to present), Kagawa
Research Association(2007 to present), Japa-
nese Association for the Study of Christianity
(2008 to present)

担当科目:Director of Seigakuin Elementary School

English Program(Grades 1, 2, 5 and 6
teacher), Seigakuin Kindergarten English
Teacher, Director of Seigakuin Kids English
Program

学生指導：Member of Christianity Committee,
Seigakuin Mission Band Organizer

専門分野：Modern Japanese History, Biblical
Studies, Elementary School English Education

研究テーマ：

- 1.Kagawa Toyohiko and post-WWII Japanese
history
- 2.Elementary school English education and
Japanese culture; content-based learning

研究内容：

- 1.Significance of Kagawa Toyohiko for post-
WWII Japanese society and church
- 2.Use of content-based learning in teaching
English to children

研究業績 (2010年度 〈2010/4～2011/3〉)

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
Ba 学術論文	Content-based elementary school English (vetted)	JALT 2009 Conference Proceedings	Growing morning glories and soybeans	June 2010
F 講演	Teaching Japanese Culture Using English	Tenth Annual Seminar for Teachers of English to Children, Seigakuin University	Japanese ABC Karuta and Chant— cultural studies in the classroom	July 2010
F 講演	Preparing teachers for the next day's lesson	Seigakuin University General Research Institute Teacher Training Seminar for Elementary School Teachers	Use of songs, stories, and original chants to teach children English	May 2010
F 講演	Preparing teachers for the next day's lesson	Seigakuin University General Research Institute Teacher Training Seminar for Elementary School Teachers	Preparing teachers of English to more effectively reach students	October 2010

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
F 講演	Engaging young English learners	Tokyo Metropolitan Yoga Elementary School Teacher Training Seminar	Techniques and materials that can inspire English learners	July 2010
F 講演	Preparing for the new English course	Setagaya-ku, Yoga Area Elementary Schools Teacher Training Seminar	Building confidence as a teacher of English: ready-to-try strategies and activities	Aug 2010
F 講演	Using games and songs to inspire children	Tokyo Metropolitan Yoga Elementary School Teacher Training Seminar	Teaching the English Note topics; Using simple and effective games	Aug 2010

ふじ わら ま ち こ 藤 原 真 知 子

現職位：特任講師

本学への就任：2003年4月1日

最終学歴：1976年5月 Ottawa University

取得学位：

1976年5月 B.A.小学校における第二外国語としての英語教授法

所属学会：JACET全国大学英語学会（2003年～）、JALT全国語学教育学会（2003年～）、JASTEC日本児童英語教育学会（2003年～）、東京私立初等学校協会外国語部会（2005年～）

担当科目：総合研究所主催小学校英語指導法セミナー年2回（小学校教員向け英語指導法講義・実践）、聖学院小学校英語（1年生・2年生・3年生・6年生）、聖学院幼稚園英語（年長ク

ラス）、キッズ・イングリッシュ（幼稚園年少児と母親・小学生1～6年）

学生指導：英語・英検指導、小学校教員英語指導サポート

専門分野：早期英語教育・児童英語教員養成

研究テーマ：「英語の使える児童」の育成・児童英語指導法

研究内容：低学年から文字指導に焦点をあてた英語指導法、コンテンツ・ベースによる小学校英語教育、公立小学校における英語指導と教員英語研修、小・中連携の英語教育、英語による日本の文化・習慣の発信とクロスカルチャーを取り入れた英語教育

研究業績（2010年度〈2010/4～2011/3〉）
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
F 講演	こうやって教えよう 小学校英語：現場からの提案	聖学院大学総合研究所 2010年度第1回小学校英語指導法セミナー（新都心ビジネス交流プラザ） 後援：埼玉県教育委員会、上尾市教育委員会、さいたま市教育委員会	1.コンテンツ・ベースによる小学校英語教育：社会科の内容を取り入れた英語指導 2.日本の風習を取り入れた発信型小学校英語教育の実践とその効果	2010年5月

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Ba 学術論文	Content-based elementary school English(査読付)	JALT 2009 Conference Proceedings	小学校における内容重視教育(Content-based instruction :CBI)の授業実践とその考察(共著)	2010年6月
F 講演	英語で日本の文化を伝えよう	聖学院大学第9回小学校教師英語指導法講座(聖学院大学)	日本の遊び、食事のマナーを児童が外国の人に伝える試みとその成果	2010年7月
F 講演	小学校英語指導法	東京都世田谷区立用賀小学校教員英語研修	フォニックスの指導法、文部科学省配布「英語ノート」の使い方	2010年7月
F 講演	担任指導による英語の授業	東京都世田谷区立桜町小学校教員英語研修	日本の文化紹介を英語の授業に取り入れる	2010年7月
F 講演	小学校英語指導法	埼玉県越生班英語研修 毛呂山町立川角小学校	児童と楽しむ英語活動	2010年8月
F 講演	担任教員が行う英語指導法	東京都世田谷区用賀地区教員英語研修	児童が積極的に英語を使うようになるアクティビティーと児童の様子を紹介	2010年8月
F 講演	「Listening + 3 skills」から始まる英語の世界	国際外国語教育研究会 神奈川大学(招待講義)	リスニングを中心とした3スキル(スピーキング、リーディング、ライティング)育成の児童英語教育(共同)	2010年9月
F 講演	こうやって教えよう 小学校英語:チャンツで楽しむストーリー	聖学院大学総合研究所 2010年度第2回小学校英語指導法セミナー 後援:埼玉県教育委員会、上尾市教育委員会、さいたま市教育委員会	チャンツを用いて日本の昔話を英語で語る授業実践とその効果について—公立小学校・私立小学校での試み	2010年10月
D 研究ノート	日本の文化・習慣を英語で発信	聖学院大学総合研究所NEWSLETTER 20-4号	日本の文化・習慣を英語で外国の人に伝えるとき児童は積極的になり、英語学習のモチベーションにつながる	2011年3月